

5. 組織的調査研究活動推進事業

実施機関：沖縄県漁業改良課

金城盛徳、吉川一男・他

本事業は、オキナワモズクの養殖に関し、恩納村、恩納村漁協の協力を得てモズク養殖現場で提起しているいろいろな問題を整理し、県・村及び漁協を含めて総合的に検討し解決策を見出そうとするものである。

わが県でモズク養殖が盛んになりだしたのは、昭和52年頃からであり、特に恩納村においては、比較的長い海岸線に沿うてモズクの養殖漁場に適した広い礁湖を有している位置条件を利用してモズク養殖技術の導入や改良に最も熱心な地域であり同地先に所せましと張られたモズク網を管理する姿は、従来の沖縄県の漁業者に養殖業に対する考え方を一変させるものである。両先島を含め沿岸水域いたるところにモズク養殖に関する第一種特定区画漁業権が設定されていてモズク養殖の関心の高さを示している。

調査の過程から問題点としてでてきたのは、まず直接生産に影響をおよぼす漁場の地形、栄養塩、波浪、流れ、照度、水温等の環境要因を把握するため継続して調査を行うこと。中層張りや沖出しの可能性のある未利用漁場の開発を試みること。土木技術を導入して養殖漁場へ改良や造成を研究すること。陸上からの赤土汚染の防止や生産物の流通の拡大や消費の開拓を図ること等があり今後継続して調査研究する必要がある。（昭和54年度組織的調査研究活動推進事業報告書）

なお、この事業は昭和54、55年度の継続事業であり昭和55年度に最終報告の予定である。